

到達目標（コンピテンシー）

1. プロフェッショナリズム			
<p>医師・医学研究者をめざす者として、それにふさわしい倫理観や価値観をもった行動ができる。</p>			
1)	倫理	①	医の倫理と生命倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。
2)	習慣・服装・品位/礼儀	①	状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。
		②	時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。
		③	自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。
3)	対人関係	①	他者に自分の価値観を押しつけず、その人格、貢献、時間を尊重し、常に敬意を払って接することができる。
4)	法令、医師会等の規範、機関規定	①	個人情報の取扱いに注意し、患者情報の守秘義務を守り、患者のプライバシーを尊重できる。
		②	各種法令、大学を含めた諸機関の規定を遵守することができる。
		③	利益相反について説明できる。
2. 生涯教育			
<p>医師・医学研究者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、医学・医療及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。</p>			
1)	科学的情報の収集・評価・管理	①	情報を、目的に合わせて効率的に入手することができ、評価することができる科学的基礎知識を身につける。
		②	入手した情報を統計学的手法を適用して評価し、適切な方法で使用し、論文作成・研究実施の基礎となる、症例提示やレポート作成ができる。
		③	社会における情報倫理を理解し、遵守することができる。また、著作権に配慮できる。

2)	国際人としての基礎	①	国内外からの最新の医学情報を収集し、発信できる英語力を有し、英語によるコミュニケーションができる。
		②	英語以外の外国語の学習を通じて、異文化を知るための情報の入手、異文化の理解ができる。
3)	自己啓発と自己鍛錬	①	医学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。
		②	独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。
		③	自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。
3. コミュニケーション			
患者やその家族と、また医療従事者との間で、他者を理解し、互いの立場を尊重した関係を構築し、コミュニケーションをとることができる。			
1)	患者や家族に対するコミュニケーション	①	医師としてふさわしい、社会性やコミュニケーションスキルを身につける。
		②	患者や患者家族の人種・民族、家庭的・社会的背景を理解して尊重することができる。
		③	患者の個人的心理、精神性や障害など、多様な患者特性を理解・尊重し、支持的な言動を取ることができる。
		④	医療の現場で、多様な患者特性が十分に支持されていない場合は、特別な配慮を示すことができる。
		⑤	社会的に問題となる患者との関係に遭遇した場合は、それを認識し、相談し、解決策や予防策を立てることができる。
2)	医療チームでのコミュニケーション	①	他者の介入が難しい事柄（告知、退院計画議論、終末期医療、性的指向や性自認をめぐる問題など）について、患者や患者家族に十分に敬意をはらい、診療チームの一員として議論に参加できる。
		②	インフォームド・コンセントの意義を理解し、取得手順を説明できる。

		③ 他の専門職に対して、尊敬、共感、責任能力、信頼性、誠実さを示しながら、チームメンバーとして議論に参加できる。
		④ チーム医療におけるリーダーシップの意義を理解し、患者の状況に応じて医師が取り得るリーダーシップを想定できる。
		⑤ 診療の引き継ぎ（ローテーション終了時、転科、転院等）に際して、引き継ぐ診療チーム・診療提供者に、臨床情報を包括的、効果的かつ正確に提供することができる。

4. 知識とその応用

基盤となる総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学など、以下の領域の知識を修得して、科学的根拠に基づき、診療や研究の実践に応用ができる。

1)	医療を実行するための知識 (※②～⑪はコアカリキュラム参照)	① 生命科学を理解するための基礎知識
		② 生命現象の科学(細胞と生物の進化)
		③ 個体の構成と機能、恒常性、発生、生体物質の代謝
		④ 個体の反応（微生物、免疫・防御、薬物）
		⑤ 病因と病態（遺伝、細胞傷害・変性と細胞死、代謝障害、循環障害、炎症と創傷治癒、腫瘍）
		⑥ 人の心理と行動、コミュニケーション
		⑦ 人体各器官の疾患 診断、治療
		⑧ 全身性疾患の病態、診断、治療
		⑨ 全身におよぶ生理的変化（成長と発達、加齢・老化と死）
		⑩ 疫学と予防、人の死に関する法
		⑪ 診断の基本(症候、臨床推論、基本的診療知識、基本的診療技能)

5. 診療の実践

患者の意思を尊重しつつ、思いやりと敬意をもった態度で、適切で効果的な診療を実施できる。

1)	病歴収集	① 患者の疾患を推察しながら、病歴を適切に聴取できる。
----	------	-----------------------------

2)	身体観察	①	鑑別診断を念頭に、身体診察を適切に実施できる。
3)	検査の選択・結果解釈	①	頻度の高い疾患に必要な検査の選択、および結果の解釈、画像の読影ができる。
4)	臨床推論・鑑別	①	得られた病歴・検査結果を総合し、系統立てて疾患を推論できる。
5)	診断と治療法の選択	①	適切な治療法の選択、治療計画が立案できる。
6)	診療録作成	①	臨床推論の過程を反映させた診療録が作成できる。
7)	療養計画	①	患者の療養計画及び疾患管理・予防計画の立案ができる。
		②	診断・治療法選択の流れを簡潔にまとめ、医療者間に提示することができる。
8)	患者へ説明	①	指導者のもと、患者への病状説明や患者教育に参加することができる。
9)	基本的臨床手技の実施	①	コアカリキュラムの学習項目としてあげられた基本的臨床手技を適切に実施できる。
10)	根拠に基づいた医療(EBM)と安全な医療	①	医療安全や感染対策（標準的予防策：standard precaution）が説明できる。
		②	ガイドラインや論文から関連情報を収集し、科学的根拠に基づいた安全な医療を説明できる。

6. 医療と社会・地域（福島をモデルとした地域理解）

A 医学、医療、保健、福祉に関する法律と社会制度、保健・医療・福祉の資源を活用し、住民健康・患者診療に貢献する準備ができています。

B 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明ができる。

1)	医療と地域	①	保健・医療・福祉に必要な施設、その機能と連携を理解している。
		②	各種の保険制度などの医療制度を理解し、説明できる。

		③	健康の維持や増進、診療などに携わる各種の医療専門職種の業務活動を理解できる。
		④	疾病・健康問題に関連した生活問題の支援のための保健・福祉制度や情報、社会資源（保健所、保健福祉センター、行政の相談窓口など）を説明できる。
		⑤	多方面（家族、かかりつけ医、診療記録、地域の福祉担当者、保健所など）から、診療に関連する情報（家・環境・周囲の助けなど）を的確に集める手段を理解している。
		⑥	地域医療に参加し、基本的な初期診療を計画できる。
2)	福島から学ぶ	①	福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。
		②	医療における地域の特性を理解し、高頻度の疾患を診断でき、治療方法と予防対策を提示できる。
		③	放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明ができる。
		④	放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。
7. 医学/科学の発展への貢献			
総合科学、生命科学・社会医学、臨床医学領域での研究の意義を理解し、科学的情報を評価し、新しい知見を生み出すために論理的・批判的な思考ができる。			
1)	科学的思考と研究	①	医学や医療の現場からリサーチ・クエスチョンを生み出す科学的思考ができる。
		②	医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を説明できる
		③	未解決の臨床的・科学的問題を認識し、仮説を立て、それを解決するための方法と資源を指導・監督のもとで見いだすことができる。
		④	指導者のもと倫理的事項に配慮して、基礎的および臨床的に興味ある領域での研究の立案ができる。
2)	福島から	①	国際的な健康問題や疾病予防について理解できる。

	世界へ	②	福島から生じる医療上の問題点を、科学的・論理的に思考することができる。
--	-----	---	-------------------------------------